

夏秋ギク「岩の白扇」の葉やけ防止技術						
[要約]「岩の白扇」は、電照打ち切り以降に生長点付近に送風することによって葉やけおよび開花遅延を防止できる。						
総合農林試験場・野菜花き部・花き科	専門	生理	対象	花き類	分類	指導
資料名：平成12年度花き試験成績書						

[背景・ねらい]

無側枝性ギク「岩の白扇」は8月開花作型において、生育中に生長点付近の未成熟葉に葉やけを生じやすく、現場で問題となっている。この生育障害は、曇雨天明けの晴天日に発生しやすい、換気不良のハウスで発生しやすい、電照打ち切り後の花芽分化期間中に発生する、という共通点がある。

この葉やけ現象を、送風処理によって葉からの蒸散を促進し、防止できないか検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「岩の白扇」は、電照打ち切り以降に生長点付近に送風することによって葉やけを防止できる。(表1)

2. 送風処理は、開花遅延を防止する効果がある。(表2)

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培現場では、すべての株に送風することは送風機の設置コスト上問題がある。そこで、できる限り換気を行う。特にハウスの妻ビニールの開放を行う。

[ 具体的データ ]

表1 「岩の白扇」における送風処理と葉やけの発生

送風の有無	処理本数	葉やけ株		葉やけ株当たり 平均葉やけ葉数	上位70cm 側枝数
		本数	発生率		
無	177本	76本	42.9%	5.3枚	3.1本
有	188	2	1.1	4.5	3.4

直挿し：5月10日、消灯：6月22日

送風ファン：直径38cm、風速6.7m/秒

表2 「岩の白扇」における送風処理と生育開花

送風の有無	消灯時(6/22)		採花日	草丈	葉数	柳葉	花首長	重量
	草丈	葉数						
無	51.5cm	22.6枚	8/16	93.8cm	46.1枚	4.7枚	3.4cm	64.8g
有	51.9	22.6	8/10	90.9	45.5	3.1	3.5	65.5

[ その他 ]

研究課題名：省力的な無側枝性ギクの生理・生態解明と安定生産技術の確立

予算区分：国補（地域実用新技術）

研究期間：平成12年度（平成11～13年）

研究担当者：出口 浩、松尾崇宏